

# 卵肉兼用種による新しい越前地鶏作出のための実証試験 (平成26～28年度)

## ●現状

- 1 再び、地鶏に対するニーズが高まってきている。
- 2 県内の食肉処理業者の一部にも、地鶏の復興を望む要望がある。  
しかし、価格が安く歯ごたえのある地鶏を望んでいる。(平成25年10月聞き取り)
- 3 福井県には、50年以上をかけて改良された産卵率の高い卵肉兼用種が存在(ウエミチレッド3号)


## ●旧越前地鶏の問題点

- 1 肉質は、旨みはあったが、肥育期間が短い  
ため歯ごたえのある鶏肉を好む県内消費者の嗜好に合わない。
- 2 生産・流通経費の増大により卸価格が高くなり、農家の収益性も悪かった。
  - ・生産費:2,000円/羽(110日)
  - ・販売価格:2,200円/羽
  - ・収益:200円/羽

## ●課題

- 1 収益性の高い地鶏の開発  
卵肉兼用種を用いることで、卵販売による収益性改善
- 2 歯ごたえのあるおいしい越前地鶏の開発  
飼育期間を延長することで、歯ごたえのあるおいしい鶏肉の生産
- 3 飼料米を給与した飼料費低減の実証

## ●試験内容

- 1 地鶏交配試験
  - ・ウエミチレッド×岡崎おうはんの交配鶏
  - ・ウエミチレッド×名古屋種の交配鶏孵化率、育成率の比較
- 2 卵肉兼用種4種による長期飼育試験
  - ・ウエミチレッド
  - ・岡崎おうはん
  - ・ウエミチレッド×岡崎おうはん
  - ・ウエミチレッド×名古屋種
  - ① 産卵率の比較検討
  - ② 肉質の比較検討  
(300、400、500日飼育)
  - ③ 飼料用米給与による飼料費低減の実証
- 3 長期間飼養による収益性の検討  
・最適飼養管理方法の確立

## ●調査項目

- 1 肉質調査  
産肉成績(と体重、部位別重量、歩留)  
肉質検査(剪断力価、水分含量、加熱損失、保水力、脂肪酸組成)  
官能検査(食味検査)
- 2 卵質調査  
産卵成績(産卵率、卵重、飼料要求率)  
卵質検査(卵殻強度、卵黄色、HU)
- 3 飼養方法の検討  
発育調査(体重、育成率)、飼料給与量  
経済性(生産費、収益)

## ●研究目標

- 県民の嗜好に合った地鶏肉の開発  
剪断力価(肉の歯ごたえ)  
(参考:ブロイラー0.3kg、越前地鶏1.0kg)  
1.0 kg ⇒ 1.2 kg  
加熱損失(肉のジューシーさ)  
18% ⇒ 15%  
(参考:ブロイラー18%、越前地鶏18%)
- 収益性の向上  
200円/羽  
⇒ 2,000円/羽
- 生産費の低減  
10%

## ●期待される効果

- 1 平飼い養鶏農家での地鶏生産拡大
- 2 平飼い養鶏農家の収入増
- 3 新規養鶏農家の誕生
- 4 新地鶏ブランドの確立

